

(別紙)

成果の説明書

(氏名)小林 徹	(学部)経済学部
1 重要事項 【研究活動】 A：Employer Learning モデルを応用した分析について、継続研究を実施し 2016 年度日本経済学会春季大会における報告、査読雑誌への投稿及び改訂を行った。成果は査読を通過し、掲載されることが決定した。 『日本経済研究』、【近刊論文 (Early View)】、「日本の労働市場における信仰による統計的差別」 B：成育地と勤務地の連続性が就業後の処遇に影響するかどうか、といった問題について分析を行った。研究成果は『産業研究』第 52 巻第 2 号に掲載される。 C：研究協力者として参画しているプロジェクト（厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）「就業状態の変化と積極的労働市場政策に関する研究」（研究代表者－山本勲慶應義塾大学教授））において、技術偏向型技術進歩の日本の労働市場への影響に関する研究を共同で行った。現状は刊行物としての成果はないが、今後刊行論文としての成果なるよう進めていく。 D：慶應義塾大学産業研究所の共同研究員として参画しているプロジェクトにおいて、学歴間所得格差に関するサーベイ・ペーパーを共同執筆した。勁草書房から近刊される共著書籍の第 3 章に掲載される予定である。 E：高崎経済大学経済学会の研究会において「マクロの労働移動、転職市場の実態・既存統計とヒアリング調査より」の報告を行った。 【教育活動】 労働経済学の講義では大森義明『労働経済学』日本評論社にそった内容だけでなく、日本の教科書ではあまり扱われていない差別に関する話題も、Borjas”Labr Economics”から扱った。資料は毎回 PPT スライドを作成し、ポータルサイトを經由して配布した。 応用計量経済学の講義では、エクセルを使用したデータ分析およびマイクロ計量経済分析の方法について、PC 教室にて説明し受講者に分析作業をしてもらった。またテキストを作成し、配布した。 基礎演習では、清家篤『労働経済』の輪読を行った。各章に関する発表担当者からの報告では、後半から PPT を使用してもらった。	
2 その他の事項 A：出前授業 津南中等教育学校 前橋南高等学校) B：ワークショップ報告：慶應義塾大学パネルデータ設計解析センター・ニッセイ基礎研究所共催ワークショップ「厚生労働省パネルデータを用いた経済分析と政策提言」 C：高崎経済大学経済学会第 2 回学術講演会の講師招聘、司会	
3 次年度以降の計画・抱負 ・厚生労働科学研究費補助金に関連した研究を刊行物として成果に結びつける。 ・1－A の成果から宗教の経済学に関するサーベイ・ペーパーの執筆依頼があり、これを作成する。また本分野はこれまでの研究とは専門分野は異なるのだが、日本での実証	

研究は殆ど無いことが分かってきたので、本分野の研究開拓を模索する。

- ・ 成育地域の文化と就業地文化との相性に関する研究を継続して行う。1－Bでは「都市性」に着目したが次は「5畿内7道」に着目する。